

開 催 報 告

種 別	比較文明学会研究例会の共催
開催日時	2024年 8月 23日(金) 14時00分 ~ 17時00分
開催形式	ハイブリッド開催(対面・オンライン併用) ※主催:比較文明学会 共催:第30回中央大学学術シンポジウム 「情報文明における共生思想構築に向けての基礎的研究」 (研究代表者:保坂 俊司 研究員(本学国際情報学部教授))
対面会場	中央大学市ヶ谷田町キャンパス 11階01教室
講 師	(1) Robert Bedeski 氏(ビクトリア大学名誉教授) (2) 岩澤 知子 氏(麗澤大学国際学部教授) 司会:保坂 俊司 研究員(本学国際情報学部教授)
テ ー マ	「文明と共生:宗教の視点から考える国家」 (1) “Civilization and State: A Theory and the case of Japan” (2) “Transcendence & Immanence, West & East: A Case of Japanese Divinity”
参加者数	20名(対面及びオンライン参加者の合計)

<報告要旨>

R. Bedeski 名誉教授は、文明は「政府」「経済」「知識」「超越的価値」の4つの要素によって支えられ、その根源は枢軸時代にさかのぼるとした。これらの要素が国家の形成に大きくかかわることを指摘すると同時に4番目の宗教、芸術、文学、哲学などの「超越的価値」は、国家の形成、発展過程において衰退する現実があるとした。同名誉教授は、日本に見られる神道を中心とした宗教的見地や態度が国家の在り方に注目し、国家の在り方を論じると同時に文明を異にする国家との共生についても説明した。

岩澤教授は、日本の「神道」の根本的な理解の必要性を語源学の視点から解説し、一般的に知られていない神道のもつ意味の理解を促した。「神への信仰」と「神の道」との違いについても詳細な説明が行われた。前者がいわゆる神道における本来の姿でイデオロギーを伴わない身体的行為や考え、「調和」や共生を重視する態度や考えであるのに対し、後者は国家形成における思想的支柱であるという。今後の国家の在り方を考えるうえで、「神への信仰」が重要になると指摘した。両教授の発表を経て、参加者との質疑が行われ、これまでの日本の歴史における神道の役割や戦争時代の問題点などについて話し合われた。また、「神への信仰」とジャワ文明など他文明との類似点なども指摘され、異なった文明と共生していくヒントも示唆された。